

私の和歌山への提言－住みやすい町を作ろう

朱 麗侠

(中国・交換留学生・浙江師範大学)

昔から、中国と日本の交流は絶えることなく続いている。そのため、日本という国は、中国人の私にとって知らないわけがない。大学で、日本語を専攻として勉強し始めてから、日本の地理や歴史や文化などの知識を徐々に積んできた。しかし、残念なことに、和歌山というところは、それらの積んだ知識の一部分でしかなかったと、日本に留学することを決める前は気付かなかった。

和歌山について、何も知らないままに留学するのはきっと大変だろうと思って、インターネットで調べてみた。インターネット利用者たちによると、和歌山は、田舎であるようで、少しがっかりした。しかし、自分の目で見なければ、本当のことがわからない。和歌山へ来てから、確かに和歌山はあまり賑やかな都市ではないが、田舎といっっては過言だろうということがわかった。逆に、静かで、小さな町であり、私の古里と似ている感じであるので、すぐ和歌山が好きになった。

ところが、何とんでも、和歌山と古里は違う国にある二つの町であるから、違うところもたくさんある。この四か月の生活から、私は、その違いを感じた。

面白いことに、私は、日本にきて、およそ五年ぶりに自転車に乗った。国では、小学生や中学生の時は、まだ自転車で学校に通っていたが、その後は、からきし乗らなかった。最近では自転車の利用率が下がる一方であった。なぜかという、二つの理由があると思う。ひとつは、電気自転車が中国人の生活に入り、よく利用されていること。もう一つは、バスシステムが急速に発展してきたこと。そのため、故郷にいたとき、学校に通うにしても、買い物に行くにしても、私は、バスを利用した。バスがきれいで、バス代も安い。日本円でいえば、30円ぐらいで、バスに乗れる。また、よくバスに乗る人たちに向ける割引カードもあり、バス代は、さらに安くなる。それは和歌山の残念な一部分と思う。和歌山はバスの本数が少ない。しかも、バス代がとても高い。たぶん、和歌山人がみんな自分の車を持っているから、バスがあまり利用されず、そういう状況になるだろう。確かに、自分の車で出かけるのは便利だが、あまり使いすぎると、自分の健康にも良くないし、和歌山の環境にも悪い影響を与える。和歌山のバスの量を多めにし、バスシステムを改善させ、市民にバスを利用することを奨励するなどのことをすれば、バスの利用率が上がるのではないだろうか考える。バスを利用する人が多くなれば、バス代も自然に下がると思う。そして、交通が便利になるのに加えて、環境保護にも役に立つことができる。

さらに和歌山の交通について話したいと思う。初めの頃は、自転車で学校に通うのになかなか出来なかった。久しぶりに自転車に乗ったせいではなく、和歌山の道路のせいである。会館から学校まで行く時、北島橋前の大通りまで走るのは比較的楽だが、北島橋を渡ってからの自転車の道は本当に狭すぎる。時々、二つの方向からの自転車が出会ったら、一両は止まったり、自動車の道に入ったりしなければならない。狭いのみならず、平坦な道ではなく、凸凹しており、向こうからの自転車が来なくても、うっかりして転んだということもよく起こっているようだ。自転車の道路を少し広めにし、凸凹のところを修理す

れば、交通事故などが少なくなり、和歌山がさらに安全になるだろう。

この前、友達と一緒にJR和歌山駅近くで買い物に行った。午後7時ぐらいにそちらに着いて、ゆっくり見てみようと思ったが、みんな、閉店の準備をし始めた。それも私の不満な点の一つである。和歌山の店などは閉める時間が早過ぎると思う。特に、銀行の場合、土日は休業で、平日は朝9時から午後3時までで、開いている時間が短すぎると思う。普通、その時間は、社会人であれば勤務中で、学生であれば授業中であろう。もし、銀行に何か用事があるとすれば、いつ行けばいいのだろうか。休みを取って銀行に行くしかないのだろうか。銀行の営業時間を長めにするか、土日も営業するなどして、市民の生活を便利にすればよいのではないだろうか。

バイトは留学生たちの生活の中の一部である。多くの留学生が夜のバイトをしている。バイトが終わると、一人で自転車で帰るのは普通だ。しかし、和歌山には、小道が多く、しかも、ほとんどの小道では、街灯が付いていないようだ。自転車でライトが付いているが、光が弱いから、身近でもはっきり見えない。もし、横から、また、突然に車が出てきたりすれば、交通事故が起こる。それに、盗人たちも隠れやすく、強奪事件や窃盗事件などが多くなる恐れがある。やはり、できるだけ、道に街灯を立てた方がいいと思う。

「水の古里」と呼ばれている私の住んでいる町をたくさんの川が流れている。それらの川に恵まれている故郷の人々は、川で泳いだり、洗濯したりしていたが、ここ数年、町の工業を発展させるため、きれいな川が犠牲となっている。清らかな水が汚くなり、臭いにおいが空気中を漂っている。今は、昔のきれいな川を戻そうと町の人々が力を入れているが、元通りになるのは長い時間立たないと無理なことだろう。和歌山には、川もあれば、海もある。学校に通う途中で見た紀ノ川は濁ったこともあるが、ほとんどの時はきれいである。また、海も大変きれいなおかげで、和歌山には魚類の名産物が多い。これまで、町の工業を発展させるために環境のことも考えてきた和歌山人は、これからも、環境保護を大切にしなければいけないと思う。

(海)



(和歌祭り)



この前、港祭りに行った。五月の和歌祭りにも出た。どちらの祭りでもたくさんの人が集まった。そのような行事は古里ではめったに行われていないようだ。そうした行事にはどのような意味があるだろうか。まず、町の人々を楽しませることができる。町のために一生懸命頑張った人たちの一つの答えといってもいいだろう。また、祭りによって、自分

の文化や歴史を展示することができ、町の人に町のことを更にわからせることができる。小学生の授業で、故郷知識という科目があった。それは、日本事情のように故郷の名産や名所や有名人を勉強する科目である。確かに、その科目を通し、自分の古里のいいところや誇りとなるところを多く知ったが、それを誇りとしよう、それを大切にしようという意識があまりついていなかった。和歌山のように時々何か特別な祭りを開催すれば、その意識を高めるのに役立つに違いない。

私は、今まで、自分の住んでいたところはどこがいい、どこが良くないということを一度も考えことがなかった。町は、私たちの住んでいるところなので、私たちの力によってしか作れない。町をよりよくしようとすれば、まず町の不十分な所を見つけなければならない。これから、また和歌山と故郷、それぞれの良さと悪さをしみじみと感じたりし、住みやすい町を作るのに少しの力を入れようと思う。